

非鉄金属市況と需給動向

2019年8月（銅、亜鉛、ニッケル、金・白金）

独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構

おことわり: 本レポートの内容は、必ずしも独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構としての見解を示すものではありません。正確な情報をお届けするよう最大限の努力を行っておりますが、本レポートの内容に誤りのある可能性もあります。本レポートに基づきとられた行動の帰結につき、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構及びレポート執筆者は何らの責めを負いかねます。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構資料からの引用である旨を明示してくださいようお願い申し上げます。

上旬に2年2か月ぶりの安値5,647US\$/t。その後は、5,700US\$/t 前後で推移

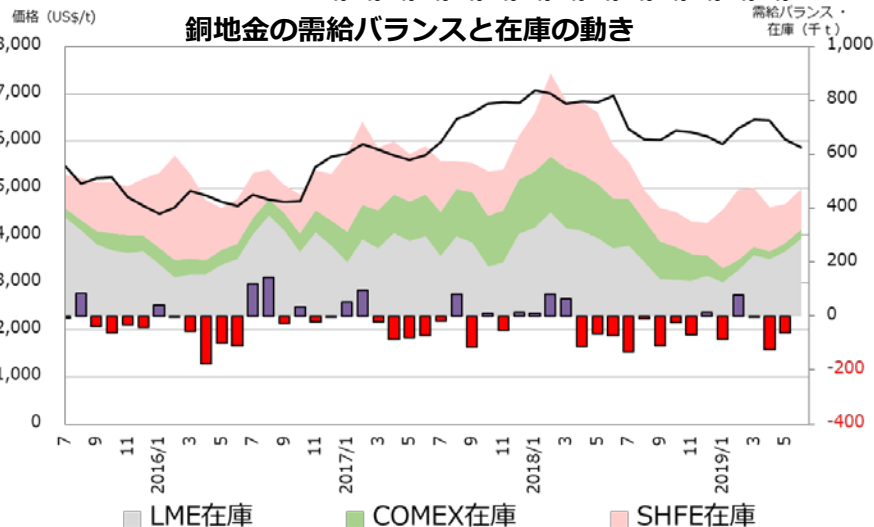
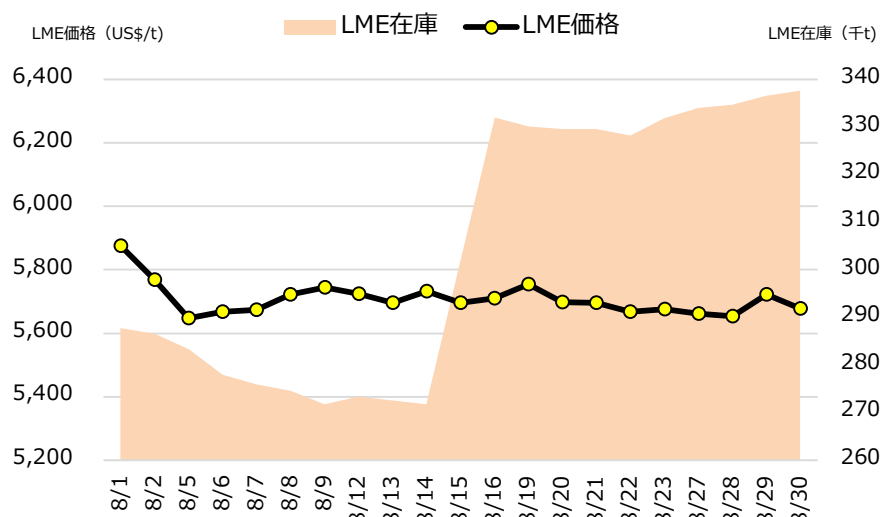
■市況動向

- ① 景気減速懸念と銅需要の弱まりで2年2か月振り安値:5,876.0US\$/tで開始。1日、トランプ米大統領による対中関税引き上げ「第4弾」の9月発動との表明に基づく景気減速懸念及びアルセロール・ミッタルの2019年世界鉄鋼需要見通しの下方修正（1～1.5%増→0.5～1.5%増）により銅需要減退が意識され、5日には2年2か月振り安値の5,647.0US\$/tまで下落。その後、ドル安の影響を受けて5,724.5US\$/tにまで回復した（19日）が、5,700US\$/t前後で推移。なお、米7月小売売上高の結果は好調であったが、15日及び16日に韓国・釜山やオランダ・ロッテルダム等のLME倉庫で在庫が大幅に増加したことで、銅価格の上昇が抑えられた。
- ② 米中貿易摩擦と中国製造業で減速感：19日に、5,755.5US\$/tの値をつけたが、下旬は緩やかに下落。米中貿易摩擦の解決の糸口が見えない中、中国製造業の減速感で中国の銅需要減退懸念で緩やかに下落。月末に一時上昇したものの5,696.0US\$/tで越月。

■需給動向

- ⚡ 国際銅研究会(ICSG)(2019年春季)によると、2018年は399千tの供給不足であったところ、2019年および2020年もそれぞれ190千tおよび250千tの供給不足が続くと予測。
- ⚡ 主要鉱山操業状況：
 - ・ Glendore社:コバルト価格の下落等を受け、DRコンゴMutanda鉱山の生産を年内に休止予定と発表（7日）。
- ⚡ その他関連情報：
 - ・ ペルーエネルギー鉱山省鉱業審議会：Southern Copper社のTia Maria銅プロジェクトの建設許可について最大120日間の一時停止を決定。これに伴い、ペルー国家港湾庁は、翌11日に停止していたMatarani港からの銅精鉱輸出を再開（10日及び11日付報道等）。
 - ・ Codelco：チリChuquibambilla鉱山の坑内採掘を正式に開始と発表（14日）。
 - ・ Ivanhoe Mines社：DRコンゴKamoa・Kakula銅鉱床のボーリング調査で銅品位18%の銅鉱床に着鉱と発表（18日）。今後精度の高い室内分析を実施。

当該期間の値動き



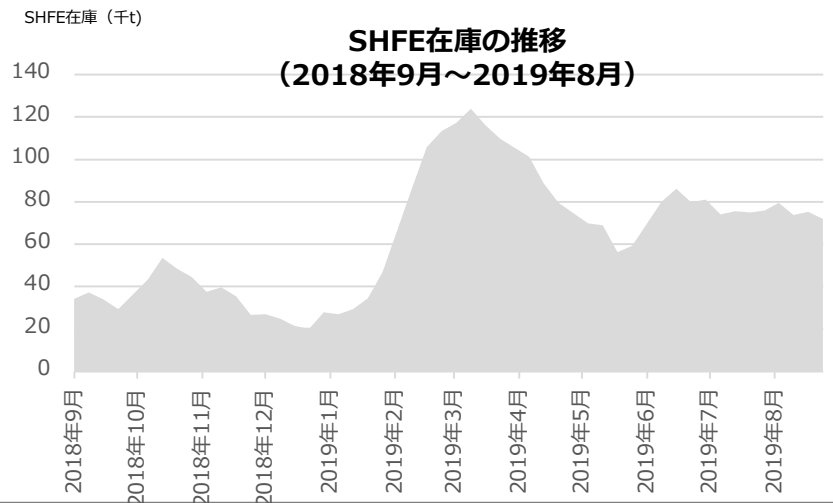
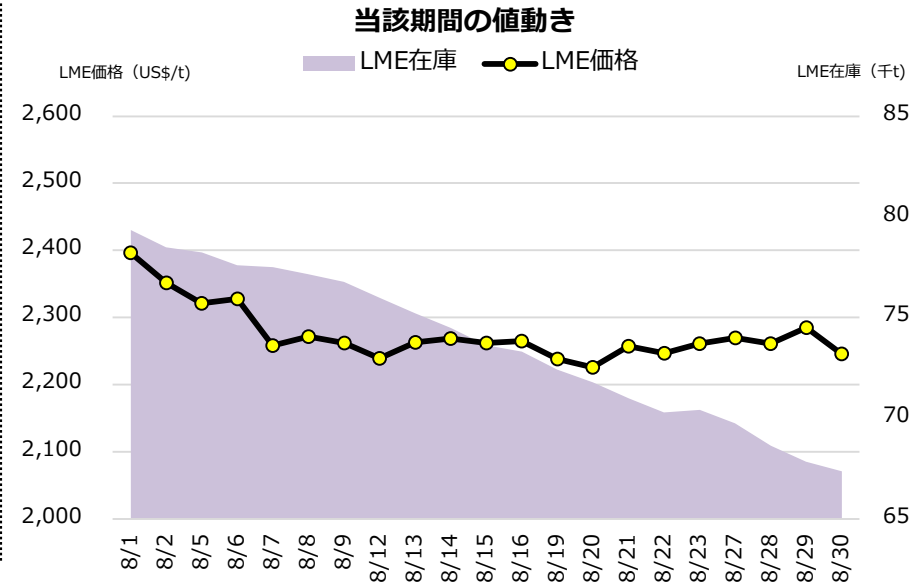
中国製錬所の増産で弱含むも、亜鉛価格低迷による鉱山操業悪化が懸念される

■ 市況動向

- ① **亜鉛需給逼迫感緩和で2,200US\$台へ**：1日、2,396.0US\$/tでスタートし、8月上旬は下落傾向を辿り、12日には3年ぶり安値となる2,239.0US\$/tをつけた。米国による対中関税引き上げ第4弾発動見通しを受けた景気減速懸念等を背景に銅が値下がりしたことや亜鉛需要への影響が懸念されたことに加え、中国製錬所での亜鉛増産で需給逼迫感が緩和していることが影響した。
- ② **亜鉛スプレッドは拡大**：8月中旬は、LME在庫が継続して減少しているにもかかわらず、2,260US\$/t台の安値圏で横ばい推移した。7月まで逆鞘にあった亜鉛現物価格と3ヶ月先物価格のスプレッドも拡大し、20日には2,226.0US\$/tの当該期間最安値へ下落、先物価格も2,240US\$/tでスプレッドは14US\$/tに拡大した。
- ③ **価格低迷により供給懸念意識高まる**：Campo Morado鉱山操業停止の報道などから価格低迷による供給懸念が出たほか、在庫減など足元の需給逼迫感が意識され、スプレッドも逆鞘に転じ、緩やかに上昇。月末は反落し2,246.0US\$/tで越月。

■ 需給動向

- 📌 国際鉛亜鉛研究会(ILZSG)(2019年春季)によると、2019年は**121千tの供給不足**との予測。2019年8月の月次発表では、2019年1~6月は**134千tの供給不足**。
- 📌 **主要鉱山操業状況**：
 - ・ 加Telson Resources社：メキシコ・Campo Morado鉱山(年産45千t)は、2015年にNyrstar社が操業停止し、その後Telson社が買収して2018年5月に商業生産を開始していたが、亜鉛価格の低下や地域コミュニティとの長期にわたる関係不和等が影響し、操業停止を決定(21日)。
 - ・ 豪Heron Resources社：Woodlawn鉱山(年産70千t)は、2018年12月に試験操業開始したところ、その後選鉱施設建設工事の遅延により操業立ち上げが計画より7ヶ月遅れており、追加出資が必要となることが明らかとなった(30日)。



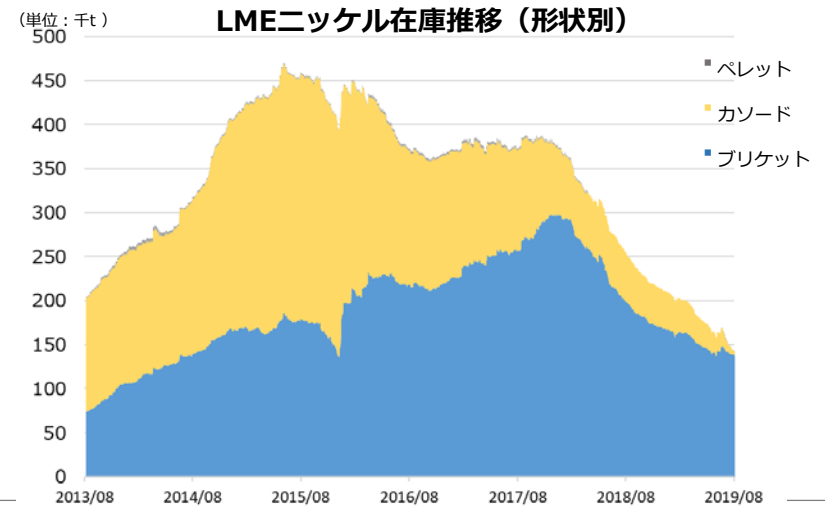
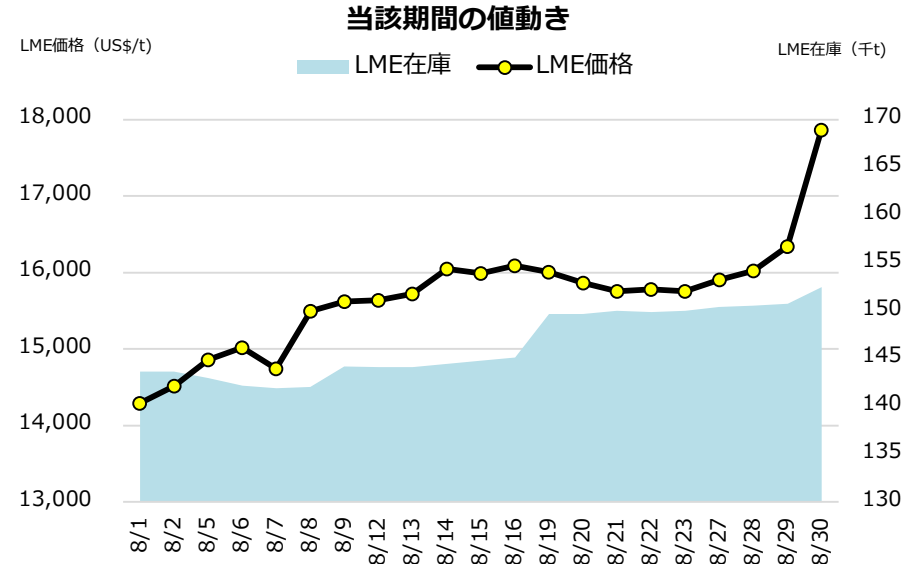
インドネシア鉱石輸出禁止前倒しの報道等を受け上昇、月末に急伸し約5年ぶりの高値

■市況動向

- ① **初旬は供給懸念から上昇傾向**：1日、14,290.0US\$/tでスタート。ニッケル鉱石主要生産国のインドネシアでは2022年に未加工鉱石の輸出を再度禁止する方針であったが、輸出禁止が前倒しになるとの報道が出回り、同国からの供給が懸念され6日に15,020.0US\$/tまで上昇。その後も中旬までは供給懸念から上昇傾向をたどった。
- ② **米中通商関係の停滞感から横ばい推移**：中旬以降は米中通商交渉に進展が見られないことを受け軟調に推移。24日、PNG・Ramu鉱山/製錬所で廃滓の河川流出事故が発生し、同製錬所の閉鎖の可能性も報道されたことから28～29日にかけては上昇した。
- ③ **インドネシアの鉱石輸出禁止が前倒しとの報道で急伸**：30日、インドネシアのエネルギー・鉱物資源大臣がニッケル鉱石輸出禁止措置の発動を2020年1月に前倒しにする政省令に署名したとの報を受け、供給懸念が急激に高まり前日比+9.27%と大幅上昇。約5年ぶりの高値となる17,860.0US\$/tをつけて越月。

■需給動向

- 👉 国際ニッケル研究会(INSRG)(2019年春季)によると、2018年の146千tの供給不足に続き、2019年も84千tの供給不足になるものと予測。
- 👉 **主要鉱山操業状況**：
 - ・ MCC Ramu NiCo社（中国企業が株式保有）：24日、同社がPNGで操業するRamu鉱山/製錬所（生産能力32.6千t/年）で廃滓の河川流出事故が発生。地元のMadang州知事や地元住民は、即時の操業停止を要求（26日報道）。
- 👉 **その他関連情報**：
 - ・ Australian Mines社：豪QLD州・Sconiプロジェクト（2021年稼働開始予定）で生産する硫酸ニッケル・硫酸コバルトのオフテイク契約を韓国・SK Innovation社と締結。SK社は、同プロジェクトで生産された硫酸ニッケル・硫酸コバルト全量を初出荷から7年間購入する権利を獲得（6日発表）。

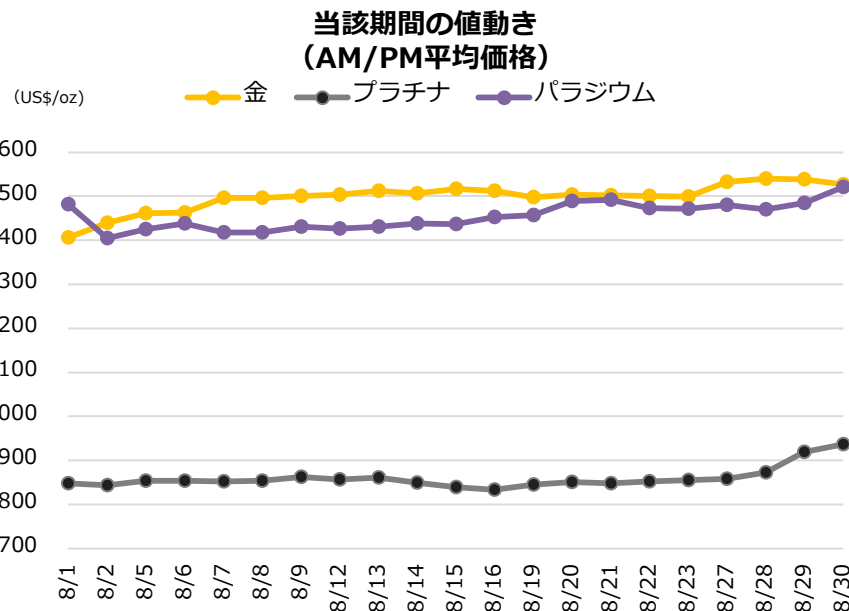


金・プラチナ・パラジウム

米政府の利下げ発表や世界的な景気後退への懸念で金価格上昇。月末にプラチナが上昇

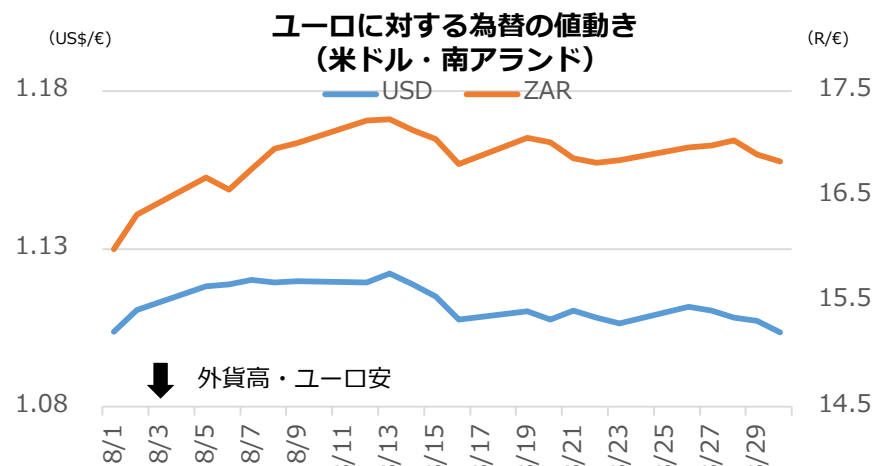
■金

- ① **米国による中国への追加関税措置の発表で上昇傾向**：当月最安値の1,406.60US\$/ozでスタートしたが、7月31日の米国の利下げ発表を受け、金投資への利点が増したことで翌日から上昇基調。1日に米政府が3,000億US\$相当の中国製品に対し10%の追加関税を課すと発表したことも価格上昇に拍車をかけ、13日に1,512.80US\$/ozをつけた。しかし13日、米政府が一部製品の追加関税発動延期を発表し反転。
- ② **逆イールド減少を受け景気後退懸念**：14日の米国債市場で景気後退の予兆とされる長短金利逆転（逆イールド）現象が起きたことを受け、世界的な景気後退への懸念が高まり15日には1,516.65US\$/ozまで上昇。その後は利益確定売りなどでやや値を下げた。
- ③ **中国による対抗措置**：23日、中国政府が米国への対抗措置として750億US\$相当の米国製品に追加関税を課すと発表すると金価格は上昇。28日、2019年最高値の1,539.45US\$/ozをつけた。月末はドル高等を受けてやや下落し、1,527.48US\$/ozで越月した。



■プラチナ・パラジウム

- ① **プラチナ**：848.0US\$/ozでスタートした後、850US\$近辺を推移し、16日当月最安値の833.5US\$/ozをつけた。月末、世界的な金利の低下を受けて上昇している金相場に追随する形で、金利を生まない商品として投機筋の買いが入り上昇、29日に約4か月ぶりに900US\$/oz台を突破。30日、2019年最高値の937.0US\$/ozで越月した。
- ② **パラジウム**：米中貿易摩擦の激化で景気後退するとの観測から、これまでの上げ基調から一転反落。1,482.5US\$/ozでスタートし、翌日に当月最安値となる1,405.0US\$/ozをつけた。その後は中国とインドでの自動車販売不振もあり、ガソリン車の触媒が最大用途であるパラジウムの需要に懸念要素が出てきたことで軟調に推移。20日には、露Norilsk Nickel社が、2019年のパラジウム市場について600千ozの供給不足となるとの見通しを示したことを背景に上昇。30日には当月最高値となる1,521.0US\$/ozで越月した。



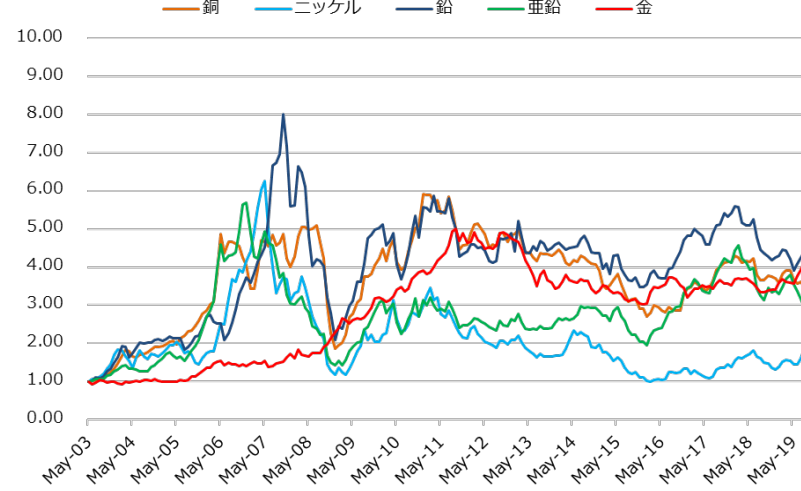
(参考)

		銅	亜鉛	ニッケル	金	プラチナ	パラジウム
		LME現物	LME現物	LME現物	AM・PM平均	AM・PM平均	AM・PM平均
		(US\$/t)	(US\$/t)	(US\$/t)	(US\$/oz)	(US\$/oz)	(US\$/oz)
本報告期	期初	5,876.0	2,396.0	14,290.0	1,406.6	848.0	1,482.5
	期末	5,678.0	2,246.0	17,860.0	1,527.5	937.0	1,521.0
	最高値	5,876.0	2,396.0	17,860.0	1,539.5	937.0	1,521.0
		8月1日	8月1日	8月30日	8月28日	8月30日	8月30日
	最安値	5,647.0	2,226.0	14,290.0	1,406.6	833.5	1,405.0
		8月5日	8月20日	8月1日	8月1日	8月16日	8月2日
	平均	5,708.0	2,275.1	15,682.1	1,498.0	859.3	1,454.3
先物 (8月29日)	3か月	5,738.5	2,275.0	16,275.0	-	-	-
	Dec 1	5,795.0	2,265.0	16,210.0	-	-	-
	Dec 2	5,840.0	2,255.0	16,240.0	-	-	-
2019年 (当年)	期初	5,839.0	2,462.0	10,440.0	1,285.1	790.5	1,265.0
	期末	5,678.0	2,246.5	17,860.0	1,527.5	937.0	1,521.0
	最高値	6,572.0	3,018.0	17,860.0	1,539.5	937.0	1,604.0
		3月1日	4月1日	8月30日	8月28日	8月30日	3月21日
	最安値	5,647.0	2,226.0	10,440.0	1,271.2	783.0	1,265.0
		8月5日	8月20日	1月2日	5月2日	2月14日	1月2, 3日
	平均	6,076.7	2,635.1	12,892.7	1,345.2	837.3	1,434.3

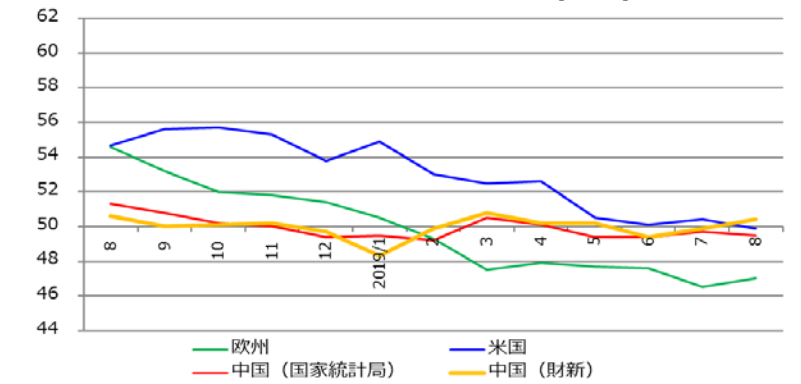
主要非鉄金属の価格推移

(2003年5月 = 1)

(JOGMEC作成)



製造業購買担当者景況指数(PMI)



米国経済	8月の製造業PMI（IHS Markit社発表）は49.9（前月：50.4、予想：50.5）と前月・予想を下回った。8月非農業部門雇用者数は前月比+13.0万人（前月改定値：+15.9万人）と市場予想の+16.0万人を下回った。失業率は3.7%（前月：3.7%）と横ばいに推移。
中国経済	8月製造業PMIは、国家統計局発表が49.5（前月：49.7、予想：49.6）と前月より後退した。財新発表の製造業PMIは50.4（前月：49.9、予想：49.8）と前月・市場予想の水準を上回った。
欧州経済	8月製造業PMIは、47.0（前月：46.5、予想：47.0）と前月を上回る結果であった。